ご挨拶　「新しい時代のアートマネジメント」

日本アートマネジメント学会会長
松本茂章

日本アートマネジメント学会は 1999 年に設立され、翌 2000 年に仙台市の文化施設で第 1 回全国大会を開催しました。その後、札幌から福岡県太宰府市までの全国各地で大会開催を続け、2018 年 12 月には第 20 回記念全国大会を迎えることになりました。人間でいえば「20 歳」の成人式にあたります。歴代会長をはじめとする関係者のご尽力に敬意を表するとともに、一層の情熱をもって学会運営に取り組みたい、と決意しているところです。

筆者自身、2000 年に入会した際には「芸術経営」「芸術管理」という言葉にいくばくかの戸惑いがありました。バブル経済が崩壊したのち、右肩上がりで成長してきた日本経済が低迷し、人材・資金・場に対する丁寧なマネジメントが求められる時期でした。アートマネジメントへの関心は高まっていたものの、どのようにマネジメントするのかの答えは、人それぞれのイメージに左右されていたようでした。

しかし、時代は急速に変容しています。2012 年の「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（劇場法）や 2017 年の「文化芸術基本法」にはアートマネジメントの必要性が明記されました。劇場法の 2 条では劇場・音楽堂等について定義を行い「文化芸術に関する活動を行うための施設及びその施設の運営に係る人的体制により構成されるもののうち…」として、「人的体制」が不可欠であることを指摘しています。13 条では劇場等に必要な「専門的能力を有する者」の具体例に触れ、「制作者、技術者、経営者、実演家その他」と列記されました。「経営者」という 3 文字が入った意義は大きいものがあります。アートマネジャーの必要性を国が認めた訳ですから。

5 年後の文化芸術基本法では 16 条において、国が養成及び確保を図る「芸術家等」として「文化芸術活動に関する企画又は制作を行う者」「文化芸術活動に関する技術者」を新たに盛り込みました。アートマネジャーの養成と確保の必要性が法律で明記されたのです。

基本法では文化政策の対象を拡張させ、「観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業」等の関連分野を同法の対象としました。すなわち理念や戦略を語る政策（ポリシー）の対象が拡張したのならば、戦術や実践を担う管理運営（マネジメント）の対象も広がることにつながります。アートマネジャーは、もっと広範囲な社会で活躍できる可能性が生まれてきました。新しい時代に突入したのです。

第 20 回記念全国大会のシンポジウムは「民が担う芸術の公共性-行政の役割の変化」と題して実施します。さらに関連事業「アートの最前線 3days」（静岡文化芸術大学主催）（11/30-12/2）も行われ、多彩なゲストをお招きします。交流会は 1 日夜、「アートの現場」として活用されているユニークな立体駐車場で実施します。奮ってご参加ください！　お待ちしています。

１．開催情報

日程　2018 年 12 月 1 日（土）～2 日（日）

※関連イベントは 11 月 30 日（金）夕方から開催

会場　静岡文化芸術大学（浜松市中区中央 2-1-1）https://www.suac.ac.jp/access.html

参加費　事前申し込み…会員：2,000 円、非会員：3,000 円

学生会員：1,000 円、学生非会員：1,500 円

当日申し込み…会員：3000 円、非会員：4000 円

学生会員：2,000 円、学生非会員：2,500 円

交流会費　4000 円（学生会員：3,000 円）

交流会会場　「万年橋パークビル 7F 駐車場」（浜松市中区田町 327-24）

万年橋パークビルは、街中の駐車場という立地を生かし、駐車場内にクリエーターが集まる創造の場を設け、中心市街地や商店街の活性化を実現しています。今回は民間による空間創造の事例を体感できる場として、ここで交流会を開催いたします。料理はブラジル BBQ などのエスニックと静岡おでん等の和食を準備しています。寒さ対策はいたしますが、半屋外のため暖かい服装でご参加ください。

２．参加申し込み方法

FAX またはフォームより【11 月 26 日（月）】までにお申し込みください。

事前申し込みを希望の方は、11 月 26 日（月）までにお振込も終えてください。11 月 27 日以降のお振込は当日申し込み扱いとなりますこと、ご了承ください。

＜フォーム＞

http://urx.red/MsUd

＜FAX＞

フォームでの申し込みができない方は、FAX にて受け付けます。

お名前、所属、電話番号、参加するイベント、昼食お弁当（1 日目、2 日目）の有無、交流会への出欠、領収書の宛名をご記入ください。お申し込みの後、参加費、お弁当代、交流会費を合わせた金額を下記にお振り込みください。

FAX：053-457-6192

※できるだけフォームでのお申し込みにご協力ください。

＜振込先＞

【銀行名】ゆうちょ銀行　【店名】四三八　【種別】普通

【口座番号】8754034　【口座名】ニホンアートマネジメントガッカイ

３．宿泊について

学会参加者には、以下のホテルを割安で利用できるようにいたしました。

予約時に「静岡文化芸術大学関係者」であることを伝えていただきますと下記価格が適用されます。電話にて「必ず申し込み時に」本学の名前をお伝えください。楽天等のホテル予約サイトや事後のお申し出では以下の料金の適用はできませんことご注意ください。

Hotel day by day

浜松市中区中央 3-10-25（浜松駅より徒歩 8 分、大学より徒歩 10 分）

http://www.hotel-daybyday.sala.jp/

TEL:053-452-6600

一泊 4200 円（税抜き）

※11 月 30 日（金）～12 月 2 日（日）までの宿泊に限る。

※部屋数には限りあり。

４．11 月 30 日（金）～12 月 2 日（日）のプログラム概要（関連イベント含む）

プログラムには若干の変更が生じる場合がありますこと、ご了承ください。詳細は 5 ページ以降をご覧ください（敬称略）。

日にち	時間	場所	イベント	主催・参加費
11月30日（金）	18:30-21:00	浜松市鴨江アートセンター	「都市観光とアートマネジメント」 ＜ゲスト＞ 神崎千賀子 （浜松市産業部参事兼シティプロモーション課フィルムコミッション推進室長） 重岡典彰 （北九州市文化部長、北九州市フィルムコミッション前事務局長） 村松厚 （浜松市鴨江アートセンター館長、木下惠介記念館館長、 静岡大学イノベーション社会連携推進機構特任教授） ＜司会進行＞ 加藤裕治 （静岡文化芸術大学文化政策学部・教授）	関連イベント 参加費無料
12月1日（土）	9:00-18:00	静岡文化芸術大学 講堂ロビー	大会受付 ※12/2は8:30-15:00	学会
	10:00-13:00	静岡文化芸術大学 講堂	「多文化共生とアートマネジメント」 ＜ゲスト＞ 遠藤文彦 （岐阜県可児市人づくり課長） 西尾美也 （奈良県立大学准教授、現代美術家） 吉富志津代 （NPO法人多言語センターFACIL理事長、名古屋外国語大学教授） ＜ディスカッサント＞ 関鎮京 （北海道教育大学岩見沢校 芸術文化政策研究室・准教授） ＜司会進行＞ 池上重弘（静岡文化芸術大学・副学長、文化政策学部・教授）	関連イベント 参加費無料
	13:10-14:50	静岡文化芸術大学	(学会代表会・運営委員会の開催)	学会
	14:20-14:50	静岡文化芸術大学 講堂	静岡文化芸術大学ガムランサークル 「スアラ・チャンダ　SuaraCanda」によるミニコンサート	関連イベント 参加費無料
	15:00-18:00	静岡文化芸術大学 講堂	記念シンポジウム 「民が担う芸術の公共性 −行政の役割の変化−」 ＜登壇者＞ 熊倉純子 （東京藝術大学教授、文化審議会第15期文化政策部会長） 古賀弥生 （九州産業大学教授、日本アートマネジメント学会九州部会長） 中川幾郎 （帝塚山大学名誉教授、初代日本文化政策学会会長） 渡辺通弘 （昭和音楽大学名誉教授、元文化庁文化部長） ＜コーディネーター＞ 片山泰輔 （静岡文化芸術大学文化政策学部・教授）	学会 参加費無料
	19:00-21:00	万年橋パークビル 駐車場	交流会（ブラジルBBQなど）	学会
	21:00-23:00	友豊ビル	アートマネジメント夜咄「中心市街地のまちづくりを語る」 ＜ゲスト＞磯村克郎（静岡文化芸術大学デザイン学部・教授）	学会×関連イベント 飲食代実費
	21:00-23:00	黒板とキッチン	アートマネジメント夜咄「ラオスの映画づくりを語る」 ＜ゲスト＞森卓（「ラオス 竜の奇跡」映画プロデューサー）	学会×関連イベント 飲食代実費
12月2日（日）	9:30-11:30	静岡文化芸術大学	分科会①	学会
	11:30-13:00	静岡文化芸術大学	昼食	学会
	13:00-15:00	静岡文化芸術大学	分科会②	学会
	15:10-16:10	静岡文化芸術大学	分科会まとめ	学会
	16:30-19:00	万年橋パークビル	「空間再創造とアートマネジメント」 ＜ゲスト＞ 赤井あずみ （鳥取県立博物館主任学芸員、ホスピテイルプロジェクトキュレーター） 鈴木基生 （万年橋パークビル代表取締役） 八巻寿文 （せんだい演劇工房10-BOX二代目工房長、 せんだい3.11メモリアル交流館長） ＜司会進行＞ 岩崎敏之 （静岡文化芸術大学デザイン学部・准教授）	関連イベント 参加費無料

５．プログラムの詳細

関連イベント「都市観光とアートマネジメント」

日時　2018 年 11 月 30 日（金）18:30-21:00

会場　浜松市鴨江アートセンター（JR 浜松駅から徒歩 15 分）

元市庁舎の鴨江別館を改装した市立文化施設。一般社団法人浜松創造都市協議会が指定管理者として運営。1928 年の建設から 1970 年（昭和 45 年）まで警察署庁舎だった。独特の石造りの重厚な建物である。

趣旨　自治体が文化政策やアートマネジメントを実施する際には、シティプロモーションや市民の誇り形成を目的とする場合が少なくない。これらの取り組みは都市への観光客誘致や自治体イメージアップを政策目的としている。先進地自治体職員から現状と課題を聞き、これからの展望を論議する。

ゲスト（五十音順）

神崎千賀子

浜松市産業部参事（兼観光・シティプロモーション課フィルムコミッション推進室長）

浜松市では、2017 年の NHK 大河ドラマ「おんな城主　直虎」後の「ポスト直虎」対策が喫緊の課題となっている。産業都市だけでなく、これから都市観光をいかに売り込むか。神崎氏は観光コンベンション課、シティプロモーション担当の勤務を経て、浜松観光コンベンションビューロー事務局長も務めた。フィルムコミッションに加えてインバウンド観光の実情に詳しい。

重岡典彰

北九州市文化部長（北九州市フィルムコミッション前事務局長）

北九州市は 1989 年以来、自治体政策として先駆的に映画･TV ドラマの撮影誘致に励んできた。日本映画だけでなく、近年は ASEAN 映画のロケ地に数多く選ばれている。こうした映像文化の推進施策が認められ、文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）に選定された。2019 年には「アジア漫画サミット」を開催する。2020 年の「東アジア文化都市」国内開催都市に決定した。

村松厚

浜松市鴨江アートセンター館長、木下恵介記念館館長（静岡大学イノベーション社会連携推進機構特任教授）

同アートセンターは戦前の警察署庁舎を活用した事例。 また 2018 年 4 月から道路を挟んで向かいに位置する浜松市木下恵介記念館の指定管理者にも選定され、浜松市の有形文化財である旧浜松銀行協会ビルを活用した映画文化の顕彰業務とかかわることになった。村松氏は 10 年余りの欧州勤務を経て、元ヤマハ法務・知的財産部長、経営企画室担当部長を歴任した。

司会進行　加藤裕治（静岡文化芸術大学文化政策学部・教授）

関連イベント「多文化共生とアートマネジメント」

日時　12 月 1 日（土）10:00-13:00

会場　静岡文化芸術大学・講堂

趣旨　日本には移民政策がないとされるが、実際には多くのニューカマーが生活している。浜松には日系ブラジル人が暮らす。浜松の特色は、日本で生まれた子どもたち、すなわち「第 2 世代」の存在と活躍である。自治体は多文化共生、外国人との文化交流をうたうものの、どこまで「第 2 世代」の活動支援に配慮できるか、が分岐点となる。各地の意欲的な取り組みに関わる識者を招き、多文化共生とアートの新たな関係性を考える。

ゲスト（五十音順）

遠藤文彦

岐阜県可児市人づくり課長

可児市では外国籍市民が急増し、同市多文化共生センター「FREVIA」を設置し対応している。また同市文化創造センター「ala」で展開される文化事業には外国籍市民を対象にした内容が試みられている。自治体文化施設による多文化共生の展望や課題を考える。遠藤氏は同市文化創造センターの事業制作課長を務めたあと、文化・多文化共生・人権などの業務を担当。

西尾美也

奈良県立大学准教授（現代美術家）

2016 年に奈良市内で開かれた「東アジア文化都市」参加の著名アーティスト。古い土蔵を用いた布のプロジェクトを行い、注目された。一方で、東京を舞台に移民 4 人がまちを歩き、出会った人々と次々に服を交換していく異色のプロジェクトを実施した。文化の差異を見つめ直す取り組みを世界各地で展開している。ケニア・ナイロビでもアートプロジェクトを行う。

吉富志津代

NPO 法人多言語センターFACIL 理事長・名古屋外国語大学教授

阪神・淡路大震災後、神戸のたかとりコミュニティセンターを拠点に、多言語のコミュニティラジオ局 FM わぃわぃを立ち上げ、地域社会と外国人をつなぐ役割を果たしてきた。また、多言語・多文化企画によるコミュニティビジネスを展開し、外国人自助組織の自立支援活動や外国ルーツの子どもたちの表現活動などを実施。

ディスカッサント　閔鎭京（北海道教育大学岩見沢校 芸術文化政策研究室・准教授）

司会進行　池上重弘（静岡文化芸術大学・副学長／文化政策学部・教授）

関連イベント「インドネシア音楽・ガムランの演奏会」

日時　12 月 1 日（土）14:20-14:50

会場　静岡文化芸術大学・講堂

内容　静岡文化芸術大学文化政策学部･梅田英春教授の指導のもと活動するガムランサークル「スアラ・チャンダ SuaraCanda」によるミニコンサート。同サークルは 2013 年に設立され、学生、卒業生、教員で構成されている。サークル名の Suara Canda とは、「音と戯れる」という意味のバリ語で、学生を中心に新しい世界の音楽に挑戦し、苦闘しながらも、その音と戯れる様子を表現している。すでに日本でガムランの演奏活動団体をもつ複数の大学により行われたイベント「ガムラン・ユニバース」（2014 年 7 月、東京藝術大学にて開催）等にも参加し、学内外で積極的な演奏活動を行っている。

学会 20 周年記念シンポジウム「民が担う芸術の公共性-行政の役割の変化」

日時　12 月 1 日（土）15:00-18:00

会場　静岡文化芸術大学・講堂

趣旨

日本アートマネジメント学会が設立された 1998 年は、NPO 法（特定非営利活動促進法）が施行された年でもある。これまでの日本では公共的な問題はもっぱら行政の役割とされてきたが、阪神淡路大震災の経験から市民による非営利活動の重要性への認識が高まり、同法の制定に至った。さらに、21 世紀になってからは、民法上の組織でありながら監督官庁の強いコントロール下にあった公益法人の制度も改革された。

アートマネジメントはイギリスで生まれ、アメリカで発展してきたと言われる。いわゆるエンタテイメントビジネスとは異なる、公益を追求する非営利の芸術団体や文化施設に科学的なマネジメントを導入しようとした取り組みが発展したものであるが、日本にも 1990 年代頃に伝わってきた。しかしながら、NPO 法や公益法人制度改革以前の、当時の日本においては、民間非営利組織の経営といってもリアリティがなく、公演や展覧会の企画運営のノウハウ取得がもっぱらの関心事となっていた。

しかし、前述の NPO 法以降、日本においても状況は変化してきた。全国に多数のアート NPO が設立され、様々な社会の課題に取り組んだアートの活動を展開している。行政が設置した公立文化施設においても、指定管理者制度のもとで民間主体が創意工夫を競っている。さらに、施設の枠から飛び出したアートプロジェクトが地域社会の中で様々な形で展開しているがこれらは多様な民間主体の参画がなければ成り立たない。

国も文化と経済的重要性についての注目を高めて来ており、2017 年 12 月、「文化経済戦略」を発表した。非営利及び営利の芸術文化産業が多くの雇用と所得を生み出し、経済全体の牽引力となっている状況と同じとまでは言えないが、大きな変化が起こり始めていることは間違いない。

本シンポジウムでは、当学会が設立された 1998 年からの 20 年間に、日本の社会における芸術の位置づけや役割がどのように変化し、そしてその担い手としての民間主体の重要性がどのように高まってきたのかを振り返り、その意義を確認するとともに今後の展望を行いたい。

登壇者（五十音順）

熊倉純子

東京藝術大学教授／文化審議会第 15 期文化政策部会長

古賀弥生

九州産業大学教授／日本アートマネジメント学会九州部会長

中川幾郎

帝塚山大学名誉教授／初代日本文化政策学会会長、元日本アートマネジメント学会関西部会長

渡辺通弘

昭和音楽大学名誉教授／元文化庁文化部長

コーディネーター　片山泰輔（静岡文化芸術大学文化政策学部・教授）

学会×関連イベント企画「アートマネジメント夜咄」

懇親会後に、シンポジウムよりも気楽に、懇親会よりは深く語り合える場として「アートマネジメント夜咄」と題した企画を 2 つ同時開催します。

＜アートマネジメント夜咄：中心市街地のまちづくりを語る＞

日時　12 月 1 日（土）21:00 頃-23:00 頃

会場　友豊ビル（浜松市中区田町 324-8　※ビル名ではなく住所で検索してください）

趣旨　地元の企業や住民と一緒に、浜松市の中心市街地のまちづくりに取り組む礒村克郎氏（静岡文化芸術大学デザイン学部教授、専門はパブリックデザイン）がゲスト。地元の不動産会社が大学・学生と地域のまちづくりの実験場として開放するテナントビルを会場に、同ビルにある礒村氏のまちづくり拠点でもあるサテライト研究室を見学しつつ、企業・大学・地域住民を巻き込んだ活動について語り合う。

＜アートマネジメント夜咄：ラオスの映画づくりを語る＞

日時　12 月 1 日（土）21:00 頃-23:00 頃

会場　黒板とキッチン（浜松市中区田町 327-24 万年橋パークビル 1F）

趣旨　ラオスに移住して約 15 年、2013 年に首都ビエンチャンで開かれた国際映画祭をきっかけに、ゼロからラオスで映画づくりに取り組んだ元料理人、現在は映画プロデューサーの森卓氏がゲスト。ラオスでの生活、日本ラオス国交 60 周年記念作品「ラオス　竜の奇跡」の製作秘話を伺いつつ、映像製作や文化・芸術の国際交流について語り合う。（森氏は交流会でラオス料理も提供）

関連イベント「空間再創造とアートマネジメント」

日時　12 月 2 日（日）16:30-19:00（16:30-17:00 現地見学）

会場　万年橋パークビル（JR 浜松駅から徒歩 10 分）

同ビルは中心市街地にある 10 階建て立体駐車場。駐車場を活用して劇団の稽古場や公演などに使用され、芸術家が出入りすることで、地元商店街の店舗や通行量が増え産業界から注目されている。

趣旨　地方都市における中心市街地の商店街やビルに空き家が目立つなか、苦境を克服して空間をアートに活用する事例が増えてきた。従来と異なる点は、大規模改修を行わず、ささやかな改装で空間を再創造することである。新たなリノベーション手法は、アートあるいは都市文化に影響を与えてきた。浜松ではゆりの木通り商店街の様子が興味深い。まちが生まれ変わった 3 事例を紹介し都市の魅力を考え直す。

ゲスト（五十音順）

赤井あずみ

鳥取県立博物館主任学芸員（近現代美術）、ホスピテイルプロジェクト キュレーター

人口 58 万人の鳥取県は全国 47 都道府県の最少自治体であり、人口減少が著しい。県都・鳥取市でも都心部に空き家が目立つ。赤井氏らは、JR 鳥取駅近くの中心市街地にある、廃業した横田医院の建物を活用して、アートプロジェクトを積極的に展開してきた。古い旅館の活用も図る。

鈴木基生

万年橋パークビル代表取締役

万年橋パークビルは浜松市中心部に位置する元市営の 10 階建て立体駐車場。近年、8 階のスペースを中心に、劇団の稽古場、能と現代劇とのコラボ公演、フリーマーケットやパーティーの会場などに使われ、民間アートセンターとしてにぎわっている。駐車場に新しい息吹を吹き込み、アートの現場に変貌させた仕掛け人で、地元商店会会長でもある。英国製の黒い帽子と着物、袴姿で知られ、愛称は「もとお」さん。社長就任以前は、浜松市内の老舗繊維問屋の経営者だった。

八巻寿文

仙台市立の演劇稽古場「せんだい演劇工房 10-BOX」は、老朽化した仙台市勤労青少年ホームを巧みに活用して、24 時間使える演劇基地に変身。同市市民文化事業団が運営し、二代目工房長の体験を語りつつ、建物の再利用の利点や悩みを振り返る。現在、館長を務める「せんだい 3.11 メモリアル交流館」は東日本大震災の記憶や経験を伝える。地下鉄の駅が新築された際、急きょ用途変更されて、2016 年 2 月に開館した市立施設で、文化事業にも活用されている。

司会進行　岩崎敏之（静岡文化芸術大学デザイン学部・准教授）

以上